

2006年トリノ冬季オリンピック開会式の平和的次元および教育的次元

舛本 直文

首都大学東京大学院
健康科学研究科HPS系
基礎教育センター



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

1

オリンピック開会式で発信される各種のメッセージ性

- ▶ 世界最大のスポーツイベントとしての祝祭性
- ▶ 厳粛な宣誓などの宗教性
- ▶ 開会宣言や国歌斉唱・国旗掲揚などの儀式性
- ▶ 世界最高のスポーツ競技会開始という競技性
- ▶ 地域文化の発信という文化性
- ▶ その国や都市の持つ最新テクノロジー(技術性)
- ▶ 「平和の祭典」という政治性
- ▶ 子どもの参加とオリンピズムの普及というムーブメント性(教育性)



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

2

研究の動機・目的

▶ 動機:

- ・メディアの関心は: 祝祭性、儀式性、文化性、アスリートの動向などへ向かう
- ・世界動向への関心→平和運動としてのオリンピックへの着目
- ・オリンピック・ムーブメントの再生産装置(教育機能)としての開会式への着目

▶ 目的:

- 開会式における平和的および教育的次元とそのメッセージを明らかにし、今後のオリンピック・ムーブメントの展開に向けて有効な示唆を得ること



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

3

トリノ冬季オリンピック開会式program

1. 情熱のリズム: 情熱のスパーク
2. アルプスからの歓迎
3. イタリア: イタリア国旗、国家元首らの入場、イタリア国歌演奏
4. オリンピック・シティ・トリノ
5. オリンピック精神: モットー(より速く、より高く、より強く)
6. 現代のヒーロー達: 選手入場行進
7. ルネサンスからバロックへ
8. 未来派から未来へ: イタリアの情熱
9. スピーチとシンボル
10. 平和: ハト、平和の歌
11. 情熱の点火: 聖火入場と点火、オリンピック・システム
12. フォルテッシモ: 花火でアレグロ

2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

4

1. 情熱のリズム: 情熱のスパーク (Rhythm of Passion: Sparks of Passion)

▶ メインテーマ:

- Passion lives here
- 「情熱はここにあり」
- ▶ 赤を基調とした色彩
- ▶ 雪と氷のない会場
- ▶ ヘルメットから火を噴きながら疾走するインライスケーター
- ▶ 真っ赤なウェアと炎
- ▶ 赤と炎と情熱と



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

5

2. アルプスからの歓迎 (Greetings from the Alps: Mountain Folk)

- ▶ カウベルや牧場: 子どもたちの歓迎
- ▶ アルプスに接する7カ国の隣人達
- ▶ (Cf. 街中: リセリという怪物達との出会い)



2006

第67回日

6

3. イタリア:イタリア国旗、国家元首らの入場、イタリア国歌演奏 (Italy: Italian Flag, Entry of the Authorities, Italian Anthem)

- 国歌の演奏と国旗の掲揚
トリノ発祥のPKO軍警察の登場
グローバルなメッセージ(儀式性と個別文化)
- 少女の登場
9才のエネオラ・ベネッティちゃんの独唱

2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

7

4. オリンピック・シティ・トリノ (Torino Olympic City: The Great Skier)

- 開会式のイメージ
- 街中のモニュメント
- 実際の会場警備の様子



2006. 8. 20



2006第67回日本体育学会in 弘前大学

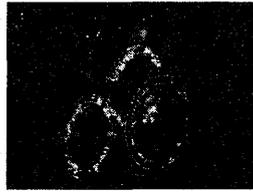
8

5. オリンピック精神:モットー(より速く、より高く、より強く)(Olympic Spirit: Citius, Altius, Fortius)

- 3つの輪で空中のパフォーマンス
- 最終はオリンピックのシンボルマークに



2006. 8. 20



2006第67回日本体育学会in 弘前大学

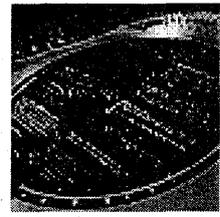
9

6. 現代のヒーロー達:選手入場行進 (Heroes of Our Time: The Athletes' Parade)

- 主役達(本当に主役か?)の入場
- テレビ視聴者のためのパフォーマンス?



2006. 8. 20

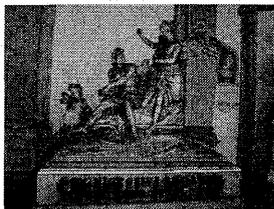


2006第67回日本体育学会in 弘前大学

10

7. ルネサンスからバロックへ (From Renaissance to Baroque)

- イタリアの情熱:町のフラッグパフォーマンス
- 王宮のパーティの風景など



2006. 8. 20



2006第67回日本体育学会in 弘前大学

11

8. 未来派から未来へ:イタリアの情熱 (From Futurism to Future: Italian Passion)

- イタリア芸術運動
- 機械主義のイメージ
- 未来派彫刻とバレエ
- フェラーリ登場F1テクノロジー



2006. 8. 20



2006第67回日本体育学会in 弘前大学

12

9. スピーチとシンボル (Words and Symbols)

- ▶ 配布プログラムのロゲ会長の開会式メッセージに「オリンピック休戦」の言葉は無い。
- ▶ 実際は重要な言葉「平和」
平和な世界を求めて: 平和・寛容・ブラザーフッドが大切
- ▶ 「Olympic Truce」が重要
- ▶ (NHKのアナは「オリンピックの真実」と誤訳: メディアのオリンピック基礎知識不足)



2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

13

10. 平和:ハト、平和の歌 (Peace: The Dove, A Song of Peace)

- ▶ シンボリックなDOVEの放鳩
- ▶ 人間による空中に浮かぶハト
- ▶ オノ・ヨーコ氏の平和メッセージ朗読「イマジン」
アクションの時、
- ▶ 平和歌「イマジン」演奏
ピーター・ガブリエル氏



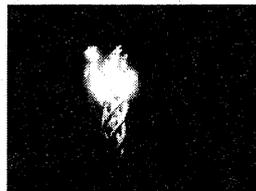
2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

14

11. 情熱の点火: 聖火入場、聖火の点火、オリンピック・システム (Light the Passion: Arrival of the Flame, Lighting of the Cauldron, The Olympic System)

- ▶ 史上最高の高さの聖火台
- ▶ リレー式点火方式
- ▶ 最終点火者:
女性のステファニア・ベルモンド



2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

15

12. フォルテッシモ: 花火でアレグロ (Fortissimo: Allegro with Fire)

- ▶ エンディング: オペラ・ハウスの登場
- ▶ サプライズ: ルチアーノ・パバロッチェの登場
トゥーランドット「誰も寝てはならない」の熱唱
- ▶ イタリア文化発信
- ▶ ローカルでグローバル
- ▶ =グローカリズム
=オリンピズムも同様



2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

16

子どもたちの参加=オリンピズム教育の好機

- ▶ 開会式の子どもの参加は限られた:
国歌、アルプス諸国からの歓迎
- ▶ スタンドでは、...



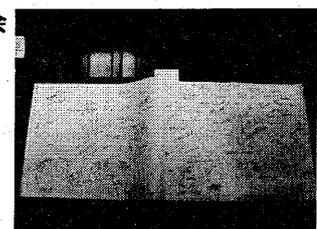
2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

17

オリンピック休戦: 巨大サインブック

- ▶ 街中のオリンピック平和運動
- ▶ 「オリンピック休戦」賛同署名活動
- ▶ 一般人の署名機会



2006. 8. 20

2006第57回日本体育学会in 弘前大学

18

ジャック・ロゲIOC会長

▶開会式プログラムにはオリンピック休戦について言及がないが、実際のスピーチではオリンピック休戦に触れる。

▶3つの選手村にオリンピック休戦賛同のサインボードを設置し署名セレモニーも実施



2006. 8. 20

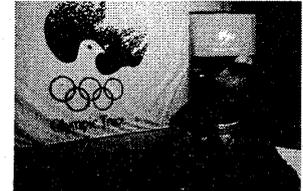
2006第67回日本体育学会in 弘前大学

19

メダル・プラザのグリーンルーム オリンピック休戦に賛同しサインするアスリート

▶オリンピック休戦センターのシンボルマーク

▶ロゲ会長の意向を受けたと言われる



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

20

子どもの遊ぶ権利財団→メダリスト達の寄付

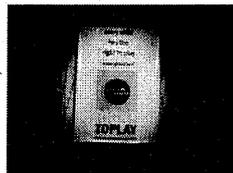
▶Right to Play の展示館

▶ヨハン・オラフ・コスが代表

▶平和支援活動の一環、子どもの人権運動と遊びの養護

▶ジョーイ・テーク選手の箱受金寄付以降、

メダリスト達の寄付が相次ぐ



2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

21

子どもの象徴的イメージ: その仮託と役割期待のための子ども論

▶ 1. 白紙としての子ども観(タブラ・ラサ): 子どもは無限に教育可能。

▶ 2. 無垢なるもの、神性を宿すもの、真のヴィジョンを直感する力を持つもの

(廣松渉執筆(1998) 哲学・思想事典、岩波書店)

▶ 子ども=夢、未来、希望、純粋無垢、神聖

▶ テレビというメディアを前提にしたオリンピック開会式の子どもたちの演出には、

▶ 「時代の無意識の託宣が子どもの身体を借りて表現される」という立場が反映されていると考えられる。

(本田和子(1995) 映像の子どもたち、人文書院)

→現代の「時代の無意識」とは?

2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

22

平和的次元と教育的次元の関連性

▶ 子どもの参加=平和的状況の指標であり、オリンピック教育の指標

▶ 2001年9月11日のテロ以来

→子ども参加の減少=教育機能の低下

▶ 2002年以来、開会式での平和的次元の強調と子どもの参加の減少の同時性

▶ トリノ冬季オリンピック開会式=平和メッセージの強調に反比例して子どもの参加の減少

▶ 「時代の無意識」さえ反映できない開会式or「テロリズム」への恐怖で慎重にならざるを得ない?

2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

23

結論

▶ 開会式の教育的次元:

子どもたちの参加が減少・オリムピズムの再生産装置は十分とはいえない

▶ 開会式の平和的次元

平和の祭典はテロ対策の警備に厚く守られてIOC会長自ら主導する「オリンピック休戦」

▶ 今後の開会式への期待:

子どもたちが安心して参加できる祝祭へ

「オリンピック休戦」活動が不要な時代の到来を!

2006. 8. 20

2006第67回日本体育学会in 弘前大学

24